

令和5年10月2日

関係機関・団体の長 様

新潟県病虫害防除所長

新潟県病虫害発生予察情報・予報第8号の送付について

このことについて、別添のとおり発表しましたので、送付します。

なお、この情報は、「新潟県病虫害防除所」のホームページでも閲覧できますので、適宜御活用ください。

新潟県病虫害防除所業務課

電 話 : 0258-35-0867

F A X : 0258-35-7445

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/>

令和5年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第8号
(10月の発生予想)

令和5年10月2日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【夏秋きゅうり】

べと病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病葉率1～25%)	① 9月下旬の発生は未確認で平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(＋)、降水量はほぼ平年並み(±)と予想されている。
うどんこ病	量：少ない 程度：少発生 (発病葉率1～25%)	① 9月下旬の発生量は平年比少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(＋)、降水量はほぼ平年並み(±)と予想されている。
褐斑病	量：並 程度：少発生 (発病葉率1～5%)	① 9月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
コナジラミ類	量：並 程度：少発生 (成虫寄生葉率1～30%)	① 9月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)
アザミウマ類	量：やや少 程度：少発生 (寄生葉率1～5%)	① 9月下旬の発生は未確認で平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)
ハモグリバエ類	量：並 程度：少発生 (被害株率1～25%)	① 9月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)
ワタヘリクロノメイガ (ウリノメイガ)	量：並 程度：少発生 (寄生株率1～20%)	① 9月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)

【秋冬だいこん】

べと病	量：並 程度：少発生 (発病度1～15)	① 9月下旬の発生は未確認で平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(－)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
黒斑細菌病	量：並 程度：少発生 (発病度1～15)	① 9月下旬の発生は未確認で平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(＋)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
白さび病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病株率1～20%)	① 9月下旬の発生は未確認で平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(－)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
アブラムシ類	量：並 程度：少発生 (発生程度指数1～50)	① 9月下旬の発生は未確認で平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(＋)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【秋冬だいこん】

コナガ	量：並 程度：少発生 (寄生株率 1～10%)	① 9月下旬の発生は未確認で平年並。(±) ② フェロモントラップの誘殺数は魚沼地域で多く、新潟地域で並～やや少ない。(±) ③ 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
-----	-------------------------------	---

【秋冬ねぎ】

さび病	量：並 程度：少発生 (発病度 1～5)	① 9月下旬の発生は未確認で平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(－)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
黒斑病・葉枯病	量：やや多い 程度：少発生 (発病度 1～20)	① 9月下旬の発生量は平年比やや多い。(＋) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
軟腐病	量：並 程度：少発生 (発病株率 1～5%)	① 9月下旬の発生は未確認で平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(＋)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
ネギハモグリバエ	量：やや少ない 程度：少発生 (被害度 1～10)	① 9月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)
ネギアザミウマ	量：並 程度：多発生 (被害度 21～30)	① 9月下旬の発生量は平年比やや少ないが、甚発生のほ場が見られる。(－～＋) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)
【防除上の留意事項】 ・収穫が近く発生が多い場合は、収穫 30 日前頃から 7～10 日間隔で 3～4 回薬剤散布する。なお、薬剤選定の際は使用基準の収穫前日数に注意する。		
シロイチモジヨトウ	量：やや多い 程度：中発生 (被害株率 11～20%)	① 9月下旬の発生量は平年比やや多い。(＋) ② フェロモントラップ誘殺数は平年並～やや多い。(±～＋) ③ 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)

【その他】

【野菜・花き類全般】 オオタバコガ	量：多い	① フェロモントラップの誘殺数は平年比多い。(＋) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(＋)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
【果樹・野菜・花き類全般】 ハスモンヨトウ	量：多い	① フェロモントラップの誘殺数は平年比多い。(＋) ② 向こう1か月の気温は平年比高いと予想されている。(＋)
【防除上の留意事項】 ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウの防除対策については、9月14日付け注意報第1号（ハスモンヨトウの多発生に注意）及び9月13日付け速報第10号（オオタバコガ、シロイチモジヨトウの誘殺数急増）を参照のこと。		

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病虫害雑草防除指針」を参照してください ～

注１：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の５段階で表記しています。

②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。

注２： 「予報の根拠」の、（＋）は発生量を増加させる要因、（－）は発生量を減少させる要因、（±）はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後７日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

新潟県病虫害防除所業務課

電 話：0258-35-0867

F A X：0258-35-7445

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/bojo/>

【参考】北陸地方 1 か月予報（9 月 30 日から 10 月 29 日までの天候見通し）

（新潟地方気象台：令和 5 年 9 月 28 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞

暖かい空気に覆われやすい時期があるため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

2 週目の気温は平年並の見込みです。

週別の気温は、1 週目は、高い確率 5 0 %です。

2 週目は、平年並または低い確率ともに 4 0 %です。

3 ～ 4 週目は、高い確率 5 0 %です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	1 0	3 0	6 0
降 水 量	3 0	4 0	3 0
日照時間	3 0	4 0	3 0

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

	低い	平年並	高い
1 週目 （ 9 月 3 0 日～1 0 月 6 日）	1 0	1 0	8 0
2 週目 （1 0 月 7 日～1 0 月 1 3 日）	2 0	5 0	3 0
3 ～ 4 週目（1 0 月 1 4 日～1 0 月 2 7 日）	2 0	4 0	4 0